

**問1** 人間は、誕生、成人、結婚、死といった生涯の節目において、それまでの社会的な立場を離れ、新たな役割や地位を獲得するための儀式を行う。日本におけるお宮参りや七五三、成人式、葬式などがこれに該当し、これらは個人の成長や立場の変化を共同体が承認する意味合いを持つ。一方、八十八夜や田植えなど、季節の循環や農作業の節目に合わせて毎年繰り返される年中行事とは区別される。このような、個人の生涯の節目に行われる儀礼を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 年中行事                      2. 冠婚葬祭                      3. 葬送儀礼                      4. 通過儀礼

**問2** 自分が特定の相手に対して嫌悪感を抱いているにもかかわらず、「相手が自分を嫌っている」と思い込むように、自らの心の中にある受け入れがたい感情を、他者が持っているものとして認知する防衛機制を何というか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. 昇華                              2. 抑圧                              3. 投影                              4. 退行

**問3** 現代社会における家族機能の外部化の具体例として、高齢者の介護を家庭内だけで抱え込まず、社会全体で支え合うことを目指して2000年から施行された、日本の社会保険制度は何か。（2022年 全国公立入試 類似）

1. 生活保護制度                      2. 国民年金制度                      3. 雇用保険制度                      4. 介護保険制度

**問4** 精神的に健康で成熟した人間が備えるべき基準として、「自己の拡大」や「客観的な自己理解（ユーマーの感覚）」、そして統一的な「人生哲学の獲得」など、いくつかの条件を提示したアメリカの心理学者は誰か。（2018年 全国公立入試 類似）

1. キャッテル                      2. エリクソン                      3. ロジャーズ                      4. オルポート

**問5** 現代社会における人々のコミュニケーションや行動様式を分析すると、世代間によって他者への配慮の示し方に違いが見られる。例えば、若年層は同調や摩擦回避を意識した対人配慮を重視する傾向がある。このように、伝統的な慣習や自己の内面的良心よりも、周囲の他者の期待や反応を敏感に察知し、それに自らを合わせていこうとする、現代の大衆社会に特有の社会的性格を何というか。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 内部指向型                      2. 市場指向型                      3. 伝統指向型                      4. 他人指向型

**問6** 英語の「良心」の語源である「共に知る」という言葉は、他者と知を共有するだけでなく、自分自身を見つめるもう一人の自分との対話を意味することもある。このような自己との対話を通じて、自らの魂をより良く整える「魂の配慮」を説き、不正を犯しそうになった際に内なる声（ダイモニオン）による警告を受けたとされる、古代ギリシャの哲学者は誰か。（2021年 全国公立入試 類似）

1. ゴルギアス                      2. ソクラテス                      3. ピタゴラス                      4. エピクロス

**問7** インターネットなどの情報通信技術が急速に普及する中で、それらを利用できる環境や能力、機会の違いによって、個人の所得や社会的地位、あるいは地域間に生じる格差を何というか。（2020年 全国公立入試 類似）

1. インフォ・デミック                      2. テクノ・ストレス                      3. デジタル・デバイド                      4. フィルター・バブル

**問8** インターネットや携帯電話などの普及に伴い、溢れる情報の中から必要なものを主体的に選択し、その信憑性を評価して適切に活用する能力が現代社会において強く求められている。このような、メディアから得られる情報を主体的に読み解き、発信する能力を何というか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. デジタル・ディバイド                      2. メディア・リテラシー                      3. ネット・リテラシー                      4. デジタル・シチズンシップ

**問9** 現代社会の複雑化や高度化に伴い、社会的な自立に必要な知識や技術の習得期間が長期化している。これに関連して、社会的な責任や義務を一時的に猶予され、大人としての自己を確立するための準備期間を、心理学者のエリクソンは何と呼んだか。（2020年 全国公立入試 類似）

1. アイデンティティの確立                      2. アイデンティティの拡散                      3. 心理社会的モラトリアム                      4. アイデンティティの危機

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	<b>答え 4</b> 通過儀礼	誕生、成人、結婚、死など、個人の生涯の節目において、新しい社会的な役割や地位を獲得するために行われる儀礼を通過儀礼（イニシエーション）と呼ぶ。これらは、個人が新たな段階へ移行することを社会的に承認する役割を持つ。お宮参りや七五三、葬式などは通過儀礼の代表例である。これに対し、八十八夜や端午の節句などは、季節の節目や農作業の目安として毎年繰り返される年中行事であり、個人の生涯の節目に伴う通過儀礼とは区別される。
問2	<b>答え 3</b> 投影	自らの中にある抑圧された不快な感情や欲求を、他者が自分に対して向けているものと思い込むことで、自らの心の安定を保とうとする防衛機制を投影（または投射）と呼ぶ。これに対し、満たされない欲求を社会的・文化的に価値のある活動（芸術やスポーツなど）に向ける心の働きは昇華、抑圧された欲求とは正反対の態度や行動をとる心の働きは反動形成と呼ばれる。
問3	<b>答え 4</b> 介護保険制度	高齢化の進展や核家族化に伴い、家族による介護が困難になったことを背景に、介護を社会全体で支える仕組みとして2000年に介護保険制度が施行された。これは家族が担っていた介護という機能を社会的な組織や制度に委ねる「家族機能の外部化」の代表的な例である。
問4	<b>答え 4</b> オルポート	精神的に健康で成熟した人間が備えるべき基準として、自己の拡大、他者との温かい人間関係、情緒的安定、客観的な自己理解、人生哲学の獲得などを提示したのは、アメリカの心理学者オルポートである。彼は、自己を客観的に見つめ、ユーモアのセンスを持つことや、人生の指針となる統一的な人生哲学を持つことが人格の成熟に不可欠であると説いた。
問5	<b>答え 4</b> 他人指向型	アメリカの社会学者リースマンは、著書『孤独な群衆』において、社会の発展段階に伴って人々の社会的性格が変化すると説いた。高度産業社会（大衆社会）においては、他者の動向や期待に敏感に反応し、同調しようとする「他人指向型」が支配的になるとされる。若年層における対人配慮を重視したコミュニケーションのあり方は、この他人指向型の特徴と深く結びついている。なお、伝統社会における「伝統指向型」、近代初期における「内部指向型」と区別される。
問6	<b>答え 2</b> ソクラテス	人間にとって最も大切なことは単に生きるのではなく「良く生きること」であるとし、そのために自らの魂を美しく善いものにする「魂の配慮」を説いた。彼は、自己の内部で対話を行い、不正を行おうとするときにそれを引き留める内なる声（ダイモニオンの合図）に耳を傾けた。これは、英語の「良心（conscience）」の語源である「共に知る（conscientia）」が意味する、もう一人の自分自身との対話というあり方と深く結びついている。
問7	<b>答え 3</b> デジタル・デバイド	情報通信技術（ICT）の利用環境や能力の違いによって生じる格差はデジタル・デバイド（情報格差）と呼ばれる。この格差は、雇用機会や所得の差、さらには社会的・経済的な不平等を拡大させる要因として、現代社会における重要な課題となっている。
問8	<b>答え 2</b> メディア・リテラシー	情報化社会の進展に伴い、溢れる情報の中から必要なものを主体的に選択し、その信憑性を評価して活用する能力の重要性が高まっている。単に情報を受け取るだけでなく、その送り手の意図を批判的に分析し、主体的に活用する能力を指す。
問9	<b>答え 3</b> 心理社会的モラトリアム	現代社会の複雑化に伴い、職業的・社会的な自立のために高度な知識や技術を身に付ける必要が生じたことで、青年期（大人への準備期間）が長期化している。このような、社会的な責任や義務を一時的に猶予され、自己形成に専念する期間を、エリクソンは心理社会的モラトリアムと呼んだ。

# 高校公民プリント（過去問類似）

## 青年期と現代社会 No.2

名前

得点

/9

**問1** 乳幼児期に見られる、自分と他者の視点を区別できない認知の状態から脱し、自分とは異なる多様な視点から客観的に物事を捉えられるようになる発達過程を「脱中心化」と名付けた、スイスの心理学者は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. スキナー                      2. ピアジェ                      3. ワトソン                      4. フロイト

**問2** 障害のある人もない人も、互いに区別されることなく、地域社会の中で共に普通の生活を送ることが本来の望ましい社会のあり方であるとする、現代の社会福祉や人権保障における基本理念を何というか。（2022年 全国公立入試 類似）

1. インクルージョン              2. ノーマライゼーション              3. メインストリーミング              4. ナショナルミニマム

**問3** 個人の記憶は、孤立して存在するのではなく、家族や地域、宗教団体といった共同体の他者との相互作用や、社会的な枠組みに依存して再構成されるものであると主張し、共同体における記憶の共有の重要性を唱えたフランスの社会学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ホルクハイマー              2. ボードリヤール              3. ガーフィンケル              4. アルヴァックス

**問4** 現代社会における福祉や支援の現場では、本人の意思を無視した過剰な介入を避けつつ、社会的な排除を防ぐことが求められる。この議論の背景には、他者とのつながりを失って社会から排除される状態と、自己との対話のために自発的に社会から一歩退く状態を区別する視点がある。このように、全体主義の分析を通じて、他者と協働できない「孤立」と、自己の内省の営みである「孤独」を区別し、個人の尊厳や複数性の重要性を説いた、20世紀の政治哲学者は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. カール・シュミット              2. ジョン・ロールズ              3. ロバート・ノージック              4. ハンナ・アーレント

**問5** 西洋の近代社会を頂点とする進歩史観や自文化中心主義（エスノセントリズム）を批判し、すべての文化はそれぞれの環境に適応して歴史的に形成されたものであり、独自の価値を有するため、文化の間に優劣や高低は存在しないとする、レヴィ＝ストロースらによって提唱された考え方を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 自由至上主義              2. 自民族中心主義              3. 文化相対主義              4. 文化帝国主義

**問6** 現代の大衆社会において、人々は内面的な信念や伝統に従うのではなく、周囲の期待やマスコミの動向に敏感に反応し、他者に合わせようとする傾向が強まるとされる。このような性格類型を「他人指向型（他人決定型）」と呼び、互いに関わりを持ちながらも孤立している現代人を「孤独な群衆」と名付けたアメリカの社会学者は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. テンニース                      2. リースマン                      3. マルクーゼ                      4. ヴェーバー

**問7** 「すべての生きようとするものを神聖なものとして敬い、これを維持し、促進することが善であり、これを破壊し、阻害することは悪である」と考え、アフリカのガボンで医療と布教活動に生涯を捧げたドイツ出身の医師・神学者が提唱した、倫理実践の基本思想を何というか。（2014年 全国公立入試 類似）

1. 他者への責任                      2. 生命への畏敬                      3. 未来への責任                      4. 自然との共生

**問8** 現代社会において、他者とのつながりを失い、自ら望まずに社会から取り残される「孤立」は解決すべき課題とされる。一方で、自ら望んで社会から一歩引き、自己と向き合って思考を深める「孤独」は、個人の精神的成長にとって有意義な営みとされる。このように、世俗的な集団から離れ、主体的に自己のあり方を問い直す態度は、近代の思想家にも見られる。客観的な真理ではなく「私にとっての真理」を求め、既成の教会や大衆のあり方を批判して、神の前に主体的に立つ個人のあり方を何と呼ぶか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 主体性                              2. 包括者                              3. 普遍者                              4. 単独者

**問9** 青年期において、アイデンティティ（自己同一性）の確立に悩む中で、学業や就職といった本来果たすべき社会的役割に対して一時的に無気力や無関心になり、何事にも意欲がわかなくなる状態を何というか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. アパシー                              2. トラウマ                              3. ジレンマ                              4. ペルソナ

## 答え合わせ・解説 No.2

問1	<b>答え 2</b> ピアジェ	スイスの心理学者であるピアジェは、子どもの認知発達において、初期の自己中心的な見方から脱却し、他者の視点や客観的な視点から物事を多角的に捉えられるようになることを「脱中心化」と呼んだ。これに対し、クーリーは「鏡に映った自己」、ハヴィガーストは「発達課題」を提唱したことで知られる。
問2	<b>答え 2</b> ノーマライゼーション	1950年代にデンマークのバンク＝ミケルセンらによって提唱された理念であり、障害者や高齢者を特別視して隔離するのではなく、社会全体で包み込んでいくという社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）や多様性の尊重の動きと深く結びついている。
問3	<b>答え 4</b> アルヴァックス	個人の記憶が社会的な枠組みの中で形成・再構成されるとする「集団的記憶」の概念を提唱したのは、フランスの社会学者アルヴァックスである。彼は、過去を思い出す行為が所属する集団の他者や社会的な枠組みに依存していることを明らかにし、個人の心理的プロセスと社会構造の結びつきを論じた。
問4	<b>答え 4</b> ハンナ・アーレント	全体主義の台頭を分析した人物であり、他者との関係性を失った「孤立」が全体主義を支える大衆を生み出すと警告した。その一方で、自分自身と対話する内省的な状態である「孤独」は、人間が批判的思考を維持するために不可欠なものであると位置づけた。この思想は、現代の高齢者支援などにおいて、本人の「一人でいたい」という意思（孤独）を尊重しつつ、社会的な排除や尊厳の喪失（孤立）を防ぐための介入を行うという、支援のあり方を理論的に支えている。
問5	<b>答え 3</b> 文化相対主義	各文化が独自の歴史や環境の中で形成された固有の価値を持つため、他者の文化を自らの基準で評価し優劣を競うべきではないとする考え方である。これにより、西洋中心的な進歩史観や自文化中心主義が批判され、異文化をその文脈において理解することの重要性が示された。
問6	<b>答え 2</b> リースマン	『孤独な群衆』の著者である。彼は、歴史的な社会の変遷に伴って人間の性格類型が「伝統指向型」から「内部指向型」、そして現代大衆社会における「他人指向型」へと変化したと分析した。他人指向型の人間は、周囲の動向やマスコミのメッセージに敏感に同調することで、内面的な孤独感を和らげようとする特徴を持つ。
問7	<b>答え 2</b> 生命への畏敬	ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーは、キリスト教の人道主義に基づき、アフリカのランパレーネで医療と布教活動を行った。彼は、自己の生命だけでなく他者の生命、さらにはすべての生命を尊び、生かそうとすることを善とする「生命への畏敬」を提唱し、生命の尊厳を倫理の根本に据えた。
問8	<b>答え 4</b> 単独者	自ら望まずに社会から取り残される「孤立」とは異なり、自ら望んで自己と向き合う「孤独」は、主体性の確立において重要な意味を持つ。19世紀のデンマークの哲学者キルケゴールは、大衆の中に埋没して主体性を失った現代人を批判し、客観的な知識ではなく「私にとっての真理」を求めて、神の前に一人で立つ主体的な個人を「単独者」と呼んだ。これは、孤独を通じて自己の存在を深く見つめ直す実存主義の先駆的な思想である。
問9	<b>答え 1</b> アパシー	青年期において、自己のあり方に悩み、アイデンティティの確立に失敗したり、社会的役割の獲得に困難を感じたりした結果、学業や就職などの本来取り組むべき活動に対して無気力・無関心になり、意欲を失ってしまう状態をアパシー（またはスチューデント・アパシー）と呼ぶ。これは、特定の役割からの心理的な退却を示す現象である。

# 高校公民プリント（過去問類似）

## 青年期と現代社会 No.3

名前

得点

/9

**問1** 高度経済成長期以降の都市部への人口流出や、近年の少子高齢化の進行を背景として、地域社会の維持が危ぶまれる地域が増加している。人口減少に伴って住民の高齢化率が50%以上となり、冠婚葬祭や道路維持、防災といった共同生活の維持が困難になった集落を何と呼ぶか。 （2023年 全国公立入試 類似）

1. 限界集落                      2. 消滅集落                      3. 存続集落                      4. 過疎地域

**問2** ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーが提唱した、自己の存在を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとするもの」であると考え、あらゆる存在に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを人間の根源的な責任とする倫理思想を何というか。 （2026年 全国公立入試 類似）

1. 自然の権利                      2. 人間中心主義                      3. 責任の原理                      4. 生命への畏敬

**問3** 現代の医療現場において、患者が医師から病状や治療方針について十分な説明を受け、それを正しく理解した上で、自らの意思に基づいて治療方針を選択・決定することを何というか。日本語では「説明と同意」とも訳される。 （2004年 全国公立入試 類似）

1. セカンド・オピニオン                      2. インフォームド・コンセント                      3. クオリティ・オブ・ライフ                      4. リビング・ウィル

**問4** 人間のパーソナリティ（性格）を理解するためのアプローチのうち、人々をいくつかの典型的なパターンに分類して捉える方法を何というか。この方法は、性格の全体像を直感的かつ総合的に把握しやすいという長所を持つ一方で、個人の多様な側面を無視して一面的に型にはめてしまいやすいという短所がある。 （2025年 全国公立入試 類似）

1. 発達論                      2. 特性論                      3. 類型論                      4. 状況論

**問5** 現代社会における労働は、賃金を得るための経済活動にとどまらず、多様な側面を持っている。オーストリア出身の思想家イリイチは、近代の産業社会において、賃金労働を成り立たせる前提でありながら、それ自体には報酬が支払われない、家事や育児などの不払い労働の存在を指摘した。このような、市場経済の影で社会を支える無償の労働を指す言葉として最も適当なものを答えよ。 （2025年 全国公立入試 類似）

1. ディーセント・ワーク                      2. アンペイド・ワーク                      3. ジェンダー・ロール                      4. シャドウ・ワーク

**問6** 日常の当たり前の前提や、人々が深く考えずに用いている言葉に対して、対話を通じて問いかけを重ねることで、自らが真には理解していないという事実を自覚させ、主体的な思考の深化を促した古代ギリシアの哲学者は誰か。 （2022年 全国公立入試 類似）

1. ゴルギアス                      2. ソクラテス                      3. ピタゴラス                      4. エピクロス

**問7** 青年は、子どもの集団から大人の集団へと移行する過渡期にあり、双方の境界に位置することから精神的な動揺や葛藤を経験しやすい。このような青年期の特徴を「境界人（マージナル・マン）」という概念で説明した、ドイツ出身の心理学者は誰か。 （2007年 全国公立入試 類似）

1. アドラー                      2. ピアジェ                      3.フロイト                      4. レヴィン

**問8** 青年期において、自分自身を客観的な対象として見つめ、他者とは異なる独立した存在として捉える心の働きが生じる。例えば、自分が抱く自己像と、他者からの評価や意見とのズレを契機として、自分という存在について改めて問い直すようなプロセスを通じて深まる、この自己に対する認識を何というか。 （2011年 全国公立入試 類似）

1. 自己実現                      2. 自我意識                      3. 欲求不満                      4. 防衛機制

**問9** 災害対策や犯罪防止といった社会安全の目的と、個人の私生活上の自由との調和が現代社会の課題となっている。世論調査において、高齢者や障害者等の名簿を防災・防犯目的で共有することに対し、プライバシー保護の観点から「必要最小限の範囲」での活用にとどめるべきだとする慎重な意見が根強い。このような、個人の尊厳を守るために私生活上の情報をみだりに公開されない権利の保障や、IT社会における適正な情報取扱いのルールを定めた、2003年に制定された日本の法律は何か。 （2010年 全国公立入試 類似）

1. 情報公開法                      2. 消費者契約法                      3. 個人情報保護法                      4. 製造物責任法

## 答え合わせ・解説 No.3

問1	<b>答え 1</b> 限界集落	高度経済成長期以降、地方から都市部への人口移動が進んだことで過疎化が進行した。さらに近年の少子高齢化が加わることで、住民の半数以上が65歳以上の高齢者となり、自治活動や共同作業などの社会的な共同生活を維持することが困難になった集落を指す。バブル経済崩壊後に初めて生じた現象ではなく、高度経済成長期以降の長期的な人口流出と少子高齢化が背景にある。
問2	<b>答え 4</b> 生命への畏敬	シュヴァイツァーは、自己の生命を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとする生命」を持っていると考えた。このすべての生命に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを「生命への畏敬」と呼び、人間の根源的な責任であると主張した。
問3	<b>答え 2</b> インフォームド・コンセント	医療技術の進歩に伴い、患者自身の自己決定権が重視されるようになった。医師が一方向的に治療方針を決めるパターナリズム（温情主義）から脱却し、患者が十分な説明を受けた上で自ら同意・選択するプロセスを指す。
問4	<b>答え 3</b> 類型論	人間の性格をいくつかの典型的なタイプに分類して理解する手法は類型論と呼ばれる。クレッチマーの体型による分類や、ユングの内向型・外向型などがその代表例である。全体像を直感的に把握しやすい利点があるが、中間的な性格を捉えにくく、ステレオタイプの人々を型にはめてしまう欠点がある。これに対し、個々の特性の組み合わせや強弱で性格を捉える方法は特性論と呼ばれる。
問5	<b>答え 4</b> シャドウ・ワーク	イリイチ (Ivan Illich) は、近代の産業社会において、賃金労働 (ペイド・ワーク) の成立を陰で支えているにもかかわらず、市場価値が認められず無償で行われる労働 (家事、育児、自己学習など) を「シャドウ・ワーク」と名付けた。これは、経済活動以外の側面や労働の多様性を捉える上で重要な概念であり、ジェンダーやケア労働の議論においても頻繁に参照される。
問6	<b>答え 2</b> ソクラテス	ソクラテスは、アテナイの市民たちが日常的に用いている美や正義などの概念について、対話 (問答法) を通じて問いかけることで、彼らが実際にはそれらを理解していないこと (無知の知) を自覚させようとした。これは、日常のありふれた前提を問い直し、思考停止に陥ることを防いで真の知へと至るための、主体的な思考の深化を促す実践であった。
問7	<b>答え 4</b> レヴィン	青年を子どもと大人の過渡期にある「境界人 (マージナル・マン)」と位置づけたのは、ドイツ出身の心理学者レヴィンである。ルソーは青年期を「第二の誕生」と呼び、ハヴィガーストは青年期の発達課題を分類・整理した。
問8	<b>答え 2</b> 自我意識	自分自身を意識の対象とすることを指す。青年期には、他者からの評価や意見をきっかけに、それまで当たり前だと思っていた自分自身のあり方を客観的に見つめ直し、他者とは異なる独立した存在として自覚するようになる。このプロセスを通じて、自己の独自性や内面への関心が高まる。なお、自己の連続性や一貫性の感覚を指す「自我同一性 (アイデンティティ)」や、自己の持つ可能性を最大限に発揮することを指す「自己実現」とは区別される。
問9	<b>答え 3</b> 個人情報保護法	高度情報社会において、個人の尊厳を守りつつ情報の有用性に配慮するために制定されたのが個人情報保護法 (個人情報の保護に関する法律) である。防災や防犯といった公共の利益のために個人情報を活用する場合であっても、世論調査等ではプライバシーへの配慮から「必要最小限の範囲」での共有を求める慎重な姿勢が主流を占めており、法運用においても個人情報の有用性と個人の権利利益の保護とのバランスが重視されている。

# 高校公民プリント（過去問類似）

## 青年期と現代社会 No.4

名前

得点

/10

**問1** 現代の科学技術社会においては、環境問題や感染症対策、食品の安全性など、不確実性を伴う課題が多く存在する。これらの課題に対し、専門家が一方的に情報を発信するだけでなく、市民、行政、事業者などの多様な関係者が、相互に情報や意見を交換し、理解を深め合うことで合意形成や信頼構築を目指す活動を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. クライシスマネジメント      2. リスクマネジメント      3. リスクコミュニケーション      4. リスクアセスメント

**問2** ICTの進展は、対面的関わりが困難な状況でも非対面的な関わりを可能にし、新たな公共空間の形成に寄与している。しかし、情報通信技術を使いこなせる人とそうでない人との間に、経済的・社会的な格差が生じることが懸念されている。この格差を指す言葉は何か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. デジタル・デバイド      2. エコー・チェンバー      3. フィルター・バブル      4. デジタル・タトゥー

**問3** アメリカのジャーナリストであるリップマンが指摘した、メディアが提供する情報などによって人々の頭の中に形成される、単純化された固定的なイメージや先入観を指す言葉は何か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. ジャーナリズム      2. ステレオタイプ      3. サブカルチャー      4. アイデンティティ

**問4** 欲求不満（フラストレーション）に直面した際、理性的・合理的な解決や防衛機制による無意識の調整を図ることなく、他者への八つ当たりや暴力などの短絡的かつ衝動的な行動によって直接的に欲求を解消しようとする反応を何というか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 反動形成      2. 迂回反応      3. 近道反応      4. 攻撃行動

**問5** 現代の福祉政策や人権擁護において重視されている、障害のある人や高齢者が健常者と区別されることなく、社会の中で当たり前のように暮らせる環境を整えるべきであるとする理念を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. メインストリーミング      2. エンパワメント      3. ノーマライゼーション      4. ウェルビーイング

**問6** 人間の欲求は、生理的欲求や安全の欲求といった低次のものから、他者から認められたいという承認の欲求、そして自らの可能性を最大限に発揮しようとする最も高次の欲求へと、5つの階層をなして発展していくという「欲求段階説」を唱えたアメリカの心理学者は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. マズロー      2.フロイト      3. アドラー      4. ピアジェ

**問7** 現代社会における課題探究や合意形成の過程において、多様なアイデアを創出するために用いられる手法の一つ。参加者は他者の意見に対する批判を一切禁止され、質よりも量を重視して自由奔放に意見を出し合うことで、相互の連想作用による新たな着想を期待する共同思考の技法を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. パネルディスカッション      2.ブレインストーミング      3.ブレインライティング      4. ロールプレイング

**問8** 学生が在学中に自らの専攻や将来の進路に関連した就業体験を行う制度。職業適性の把握や、働くことへの具体的なイメージ形成を促す教育的効果が期待されている、この制度の名称を何というか。 (2010年 全国公立入試 類似)

1. フレックスタイム      2. アウトソーシング      3. ワークシェアリング      4. インターンシップ

**問9** 近年の日本において、高齢化や未婚化の進行を背景に急増しており、全世帯に占める割合が最も高くなっている世帯区分を何というか。この世帯の増加により、かつて主流であった夫婦と未婚の子どもからなる家族形態の割合は減少傾向に転じている。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 単独世帯      2. 親族世帯      3. 普通世帯      4. 一般世帯

**問10** 1990年代後半にイギリスで誕生し、哺乳類において受精卵以外の細胞からでも遺伝的に同一の個体を作製できることを世界で初めて実証した、体細胞クローン技術の象徴となった羊の名称を何というか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. クローン技術規制法      2. ヒトゲノム計画      3. クローン羊ドリー      4. ゲノム編集技術

## 答え合わせ・解説 No.4

問1	<b>答え 3</b> リスクコミュニケーション	科学技術の進歩に伴う不確実なリスクに対しては、専門家による客観的な分析（リスク評価）や、それに基づく政策決定（リスク管理）だけでは不十分であり、市民やメディアを含む多様な関係者が双方向で情報や意見を交換し、相互理解を深めるプロセスが重要視される。これにより、社会的な合意形成や信頼関係の構築が図られる。
問2	<b>答え 1</b> デジタル・デバイド	デジタル・デバイド（情報格差）は、ICT（情報通信技術）の利用環境や活用能力の違いによって生じる、社会的・経済的な格差のことである。非対面的関わりが重視される現代社会において、この格差の解消は公平な公共空間を維持するために不可欠な課題となっている。
問3	<b>答え 2</b> ステレオタイプ	印刷の鉛版（ステロ版）に由来する言葉で、複雑な現実を理解する際に、人々が頼りがちな「あらかじめ用意された固定的なイメージ」を指す。リップマンは、人々がこのイメージ（擬似環境）を通して現実を理解しているため、メディアの情報操作によって世論が容易に誘導される危険性があると警鐘を鳴らした。
問4	<b>答え 3</b> 近道反応	欲求不満が生じた際、人間は様々な方法で適応を図る。理性的・合理的に解決しようとする「合理的解決」や、無意識のうちに心の安定を保とうとする「防衛機制」とは異なり、衝動をコントロールできずに他者への暴力や八つ当たりといった短絡的な行動に走ることを近道反応（ショートカット・リアクション）と呼ぶ。
問5	<b>答え 3</b> ノーマライゼーション	すべての人が障害の有無や年齢にかかわらず、社会の一員として通常の生活を送る権利があるという考え方である。この理念に基づき、段差の解消（バリアフリー）や、誰もが使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）の導入などが進められている。
問6	<b>答え 1</b> マズロー	人間の欲求が低次から高次へと5つの階層をなして積み重なるという「欲求段階説」を提唱したのは、アメリカの心理学者マズローである。彼は、人間は自己実現に向けて絶えず成長する存在であると捉え、人間性心理学の分野において大きな影響を与えた。
問7	<b>答え 2</b> ブレインストーミング	課題解決やアイデア創出の初期段階において、批判を禁止し、自由な発想で多くの意見を出し合う手法はブレインストーミングと呼ばれる。他者の意見を否定しないことで、参加者が萎縮せずに多様な視点からアイデアを提示できる環境を整え、それらを組み合わせることで独創的な解決策を導き出すことを目的とする。
問8	<b>答え 4</b> インターンシップ	在学中に実際の職場で就業体験を行う制度はインターンシップと呼ばれる。学生が自らの適性や将来の進路について考える契機となり、職業観の育成に寄与する。ワークシェアリングは仕事を分け合うことで雇用を維持・創出する制度であり、これとは異なる。
問9	<b>答え 1</b> 単独世帯	一人暮らしの世帯は統計上、単独世帯と呼ばれる。高齢化による独居高齢者の増加や、未婚化・晩婚化の進行に伴い、単独世帯の割合は急増しており、現在では全世帯の中で最も高い割合を占めるに至っている。これにより、高度経済成長期に定着した核家族の世帯割合は減少傾向を示している。
問10	<b>答え 3</b> クローン羊ドリー	1996年にイギリスで誕生したクローン羊ドリーは、哺乳類の体細胞からクローン個体を作製することに成功した世界初の例である。この成功は、分化した体細胞の核が初期化可能であることを示し、将来的に患者自身の細胞から拒絶反応のない移植用臓器を作製する再生医療などの研究に大きな道を開いた一方で、クローン人間の作製につながる懸念など、生命倫理上の大きな議論を巻き起こした。

# 高校公民プリント（過去問類似）

## 青年期と現代社会 No.5

名前

得点

/10

**問1** 人間は自然の征服者ではなく、生物共同体の単なる一構成員にすぎないとし、大地や動植物を含む生態系全体を尊重すべきであるとする「土地倫理」を提唱した、アメリカの環境倫理思想家は誰か。（2022年 全国公立入試 類似）

1. レイチェル・カーソン      2. ピーター・シンガー      3. ガレット・ハーディン      4. アルド・レオポルド

**問2** 近代の科学技術がもたらした物質的豊かさの一方で、地球環境の破壊や核兵器の脅威といった負の側面が顕在化した。これに対して、従来の倫理学が同時代の人間の相互関係のみを対象としていたことを批判し、人類の存続や未来世代、さらには自然に対する責任を基本とする新しい倫理を提唱したドイツ出身の哲学者は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. ジョン・ロールズ      2. ピーター・シンガー      3. ハンス・ヨナス      4. マイケル・サンデル

**問3** 青年期の心理において、欲求不満（フラストレーション）や葛藤（コンフリクト）から生じる不安や苦痛を和らげ、自我を守ろうとする無意識の心の働きを「防衛機制」という。このうち、自分にとって受け入れがたい不快な欲求や記憶を、意識の下に押し込めて忘却しようとする最も基本的な働きを何というか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 否認      2. 逃避      3. 代償      4. 抑圧

**問4** アメリカの社会学者が著書『孤独な群衆』の中で提唱した概念で、他者の期待や行動を敏感に察知し、それを自らの行動基準として周囲に同調しようとする、現代の大衆社会に特徴的な社会的性格を何というか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 伝統指向型      2. 他人指向型      3. 内部指向型      4. 市場指向型

**問5** 古代ローマの政治家・哲学者であり、肉体の衰えを伴う老年期を、豊かな経験に基づく知恵の獲得や精神的な完成の時期として肯定的に捉える著作『老年について』を著した人物は誰か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. プロティノス      2. セネカ      3. ルクレティウス      4. キケロ

**問6** 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」といった性別に基づく固定的な意識を見直し、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指して、1999年に制定された法律は何か。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 次世代育成支援対策推進法      2. 労働者災害補償保険法      3. 男女共同参画社会基本法      4. 男女雇用機会均等法

**問7** 青年期における葛藤（コンフリクト）の具体例として、「条件の良い企業の採用面接と、本当に挑戦したかった劇団のオーディションが同日同時時間帯に重なってしまい、どちらか一方しか選べない状況」のように、魅力的な二つの選択肢のどちらも選びたいが、同時に選択できないために生じる葛藤を何というか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. 接近－回避の葛藤      2. 回避－回避の葛藤      3. 接近－接近の葛藤      4. 回避－接近の葛藤

**問8** 第一次世界大戦前からアフリカのランバレーネ（現在のガボン）に赴き、現地の人々のための医療と布教活動に生涯を捧げた人物は誰か。彼は、すべての生きようとする生命を尊び、他者を助け生かすことを善とする思想を提唱した。（2014年 全国公立入試 類似）

1. ケルケゴール      2. シュヴァイツァー      3. ボンヘッファー      4. シュライアマハー

**問9** 青年期を、大人としての社会的責任や義務が一時的に免除される「社会的猶予期間」と位置づけ、この時期におけるアイデンティティ（自己同一性）の確立の重要性を説いたアメリカの心理学者は誰か。（2014年 全国公立入試 類似）

1. シュブランガー      2. レヴィン      3. エリクソン      4. オルポート

**問10** 近代市民社会の成立によって獲得された自由が、孤独や不安をもたらす重荷となり、人々が自発的にファシズムなどの強大な権威へと服従していく心理を分析したドイツ出身の社会心理学者は誰か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. ミード      2. パース      3. フロム      4. ユング

## 答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 アルド・レオポルド	人間を自然の支配者とみなす従来の人間中心主義的な自然観を批判し、人間を生物共同体の一構成員と位置づける「土地倫理」を提唱した。彼は、人間は土地（土壌、水、植物、動物）を単なる資源として利用するだけでなく、それらを含む共同体全体に対して倫理的な責任を負うべきだと主張した。
問2	答え 3 ハンス・ヨナス	近代科学技術の巨大な力がもたらす負の側面を直視し、従来の倫理学の枠組みを超えて、未来世代や地球上の生命全体に対する人間の責任を問う「責任原理」を唱えた。これは理性のあり方を多角的に再考する現代倫理の代表的な思想である。
問3	答え 4 抑圧	不安や苦痛をもたらす不快な欲求や記憶を、無意識のうちに抑え込んで思い出さないようにすることで、心の安定を保とうとする働きは「抑圧」と呼ばれる。これは防衛機制の中でも最も基本的かつ代表的なものである。
問4	答え 2 他人指向型	社会の発展段階や人口動態の変化に伴い、人間の社会的性格が「伝統指向型」「内部指向型」「他人指向型」へと移行すると分析された。現代の消費社会・大衆社会においては、他者の動向や期待を敏感に察知し、それに合わせようとする同調傾向が顕著になるとされる。
問5	答え 4 キケロ	著作『老年について』において、老いがもたらす肉体的な衰えや快樂の喪失を否定的に捉える世間の見方に反論した。老年期こそが豊かな経験に基づいた知恵や判断力を発揮し、精神的な完成（人格の完成）へと向かう独自の価値を持つ時期であると主張した。これは、老いを人生の衰退期ではなく、精神的な豊かさを獲得する重要な時期として肯定的に位置づける代表的な思想である。
問6	答え 3 男女共同参画社会基本法	1990年代後半、固定的な性別役割分担意識の変化や国際的なジェンダー平等の潮流を背景に、男女が対等な共同参画者としてあらゆる分野で活躍できる社会づくりを目指す基本法として、1999年に制定された。この法律に基づき、男女共同参画計画の策定などが進められている。
問7	答え 3 接近－接近の葛藤	レヴィンが提唱した葛藤の類型において、プラスの価値を持つ二つの対象（接近したい対象）が同時に現れ、その両方を選択することが不可能な場合に生じる葛藤である。これに対し、マイナスの価値を持つ二つの対象からどちらかを選ばなければならない状況は「回避－回避の葛藤」、一つの対象に対してプラスとマイナスの両方の感情を抱く状況は「接近－回避の葛藤」と呼ばれる。
問8	答え 2 シュヴァイツァー	アルベルト・シュヴァイツァーは、オルガン奏者や神学者としての地位を捨てて医学を学び、アフリカの赤道直下にあるランパレーネで医療活動とキリスト教の布教活動に従事した。すべての生命を神聖なものとして敬う「生命への畏敬」を唱え、1952年にはノーベル平和賞を受賞した。
問9	答え 3 エリクソン	青年期を社会的猶予期間（モラトリアム）と呼び、アイデンティティの確立をこの時期の発達課題として位置づけたのは、アメリカの心理学者エリクソンである。ルソーは『エミール』の中で青年期を「第二の誕生」と表現し、ハヴィガーストは各発達段階における課題を整理した。
問10	答え 3 フロム	近代社会において自由を獲得した個人が、その自由に伴う孤独や不安に耐えかねて、自ら進んでナチズムなどの全体主義的な権威に従属していく心理を分析した。この思想は著書『自由からの逃走』において示され、大衆社会におけるファシズム台頭の背景を解き明かしたものとして知られる。